

令和5年度 第2回八代市総合教育会議 会議録

(令和5年12月15日)

令和5年度 第2回八代市総合教育会議 会議録

- 【開催日】 令和5年12月15日（金）
- 【場所】 八代市役所 庁議室
- 【出席者】 中村博生 市長
北岡博 教育長
渡邊裕一 教育委員
早田 蛍 教育委員
澤村 互寛 教育委員
丸山 智子 教育委員
- 【出席職員】 中 勇 二 教育部長
松川 由美 教育部次長
田中 智樹 教育部次長
下津 恵美 教育政策課長
田北 佳一郎 学校教育課長
三浦 稔 継 学校教育課審議員
黒木 崇博 学校教育課指導主事兼指導係長
瀧川 尚樹 学校教育課指導係指導主事
有働 有里子 学校教育課指導係指導主事
稲本 健一 教育部理事兼教育施設課長
高崎 博文 生涯学習課長
櫻井 幸枝 教育サポートセンター所長
上角 愛美子 博物館未来の森ミュージアム副館長
沖田 良三 市長公室長
浅川 公利 秘書広報課長
福本 桂三 健康福祉部長
田中 かおり 健康福祉部次長
梅野 展文 健康福祉部次長
橋口 伸一 こども未来課長
秋永 誠一 こども未来課課長補佐
石本 裕美 こども未来課保育係長
永吉 理恵子 こども未来課子育て給付サービス係長
中村 光宏 財務部理事兼財政課長
- 【事務局】 萩本 誠子 教育政策課教育政策係長
松本 和美 教育政策課上席参事

- 【協議事項】
- (1) 英語教育の推進について
 - (2) 就学前教育の連携について
 - (3) 放課後児童クラブの現状と課題について

1 開会 (午後3時00分 開会)

2 市長あいさつ

3 協議事項

(1) 英語教育の推進について

田北学校教育課長 資料により説明

渡邊教育委員 英語に対する関心や理解度について、小学6年生の児童が大変高いレベルを維持していることを理解したが、英検を受験しない生徒が多数いる理由をどう捉えているか。

また、小学校に派遣されている英語支援員は、何校に何人いるか。

瀧川学校教育課指導係指導主事 受験率が低い理由として、補助はあるものの、一旦受験料を全額負担してもらった後に補助金を振り込む形となっているため、経済面での壁がある。また、生徒への呼びかけについては、補助金に関するチラシを毎学期配布しており、更に今回は、保護者に対して直接一斉メールを送信する等、各学校ともに熱心に取り組んでいるが、なかなか受験に繋がらないことが悩みである。

英語支援員については、現在3名を配置しており、1人当たり3～4校を担当している。大規模校については、週2回程度、通常校では週1回程度の勤務となっていて、特に指導経験のない教員にとって、大きな助けになっている。

渡邊教育委員 今回、英検受験料の全額補助という方針を立てられたことは大変素晴らしい。今回の取組について、英語教諭間で温度差があってはいけないので、学校長の指導の下、学校全体でしっかりと取り組むよう指導をお願いします。受験自体が目的になると負担感が増すので、目的をしっかりと伝えていただくことが大事だと思う。

中村市長 この目標を達成するためには、学校単位で競争意識を持って英語教育に取り組む必要があり、今一度、英語教育の在り方を

考えなければならない。教育委員会としても、教育長を通じ、各学校をどんどん指導してほしい。

澤村教育委員

これまでの取組の成果として、令和2年度から外部講師を招聘し、中学校英語担当教員研修を年間に複数回実施することで、英語担当教員の指導力向上が図られたということだが、一方で、各種学力調査の正答率結果においては、本市はかなり低い状況にあり、その原因、要因をどのように捉えればよいかと思った。

丸山教育委員

CEFR A1レベル相当以上の取得率について、県の目標値が示されているので大事な取組だと思う。日本の英語教育は、長年やっている割には英語を話せるようになっていないので、そこを変えていかなければならない。本市が、このように力を入れて取り組まれることは、非常に重要なことだと思う。そのなかでも、小学6年生で「英語が好き」という児童が、県の結果と比較してもこれだけ多いことは、非常に希望が持てる。やはり、好きでないと勉強しようという気持ちにならないので、ここを大事にしていきたい。受験することが目標になり、中学生になって段々と英語が嫌いになっていっては本末転倒なので、ALTの先生などにコミュニケーションの楽しさを教えていただくところも重要視しながら、英語学習を深めていきたいと思う。

早田教育委員

本市の学校にも外国籍の児童生徒が増えており、それらのサポートを代陽小学校や周辺地域が行っていると聞いた。外国籍の子が学校に馴染んでいくためにも、周りの子どもたちの英語能力が上がることは必要なので、こういった予算をかけて英語に親しむ機会を増やすことはとてもいいと思うし、保護者としても子どもが興味を持つきっかけになれば、すごく有難いと感じた。

一方で、学校の負担については心配するところである。様々な分野の学校教育を行わなければならないなかで、英語教育に対し本気で取り組める学校がどれくらいあるのか、学校の負担と子どもたちの学力の問題については、率直に難しいと感じたところである。

中村市長

本会議で出た教育委員の皆さんのご意見等を、学校側にも丁寧に伝えていきたいので、よろしく願います。

(2) 就学前教育の連携について

田北学校教育課長 資料により説明

橋口こども未来課長 資料により説明

澤村教育委員 就学前教育の連携という議題から、幼・保・小連携等を中心とした内容であると思っていた。

別添資料2で示されているくまもとスタンダードにおいて、小学校でスタートカリキュラムを実施し、見直しをされているとのことだが、ここに記載されているとおり、小学校教育はゼロからのスタートではないことを理解・実践しなければいけないということを、教員全員がしっかり認識しておくことが大事だと思う。私の小学校教員時代を思い出してみると、小・中連携と比べて、幼・保連携は少し弱かった印象がある。子どもの育ちは、幼児期から連続しているものとの認識を持って、小学校がしっかりと取り組む必要があると思った。幼稚園、保育園との引継ぎ会等の機会を通して、園児たちの様子をしっかりと捉えることが大事だと思う。その時間を確保することは、難しいと思うが、出来る限り時間をかけて情報交換する、その積み重ねが大事だと思う。良かった点、悪かった点の評価を見直しに繋げていっていただきたい。

渡邊教育委員 八代市立幼稚園再編基本方針の概要版が出ているが、今回初めて教育委員会と市長部局が同じ場で協議できることをうれしく思う。

現在、来年度の園児募集の時期かと思うが、現時点での申し込み状況は把握されているか。

三浦学校教育課審議員 12月1日現在、令和6年度入園希望者数は92名となっている。前年度の11月17日現在が95名だったので、若干少ないが、募集期間の3月までに少しでも増えたらと思っている。

渡邊教育委員 かなり厳しい数字だが、先ほどの説明にあった教育委員会と市長部局との意見交換等や連携については、まさにその通り必要なことだと思う。この幼稚園再編方針について、こども未来課はどのように受け止め、どんな考えを持っているのか。

橋口こども未来課長 子どもの数が減少し、両親の働き方も変わってきているなか、どちらかと言えば、保育所を選択する流れになっているところも見受けられる。認定こども園化等、教育委員会と連携して取組を進めていけたらと考えている。

渡邊教育委員 保育園の部局と幼稚園の部局が同じ組織でやっている自治体もあると思うが、本市においては、教育委員会と市長部局に分かれての現体制が望ましいとの考えなのか。

中教育部長 これからの検討課題であると認識している。今回のパブリックコメントのなかでも、統一の部署で所管すべきとの意見が複数寄せられたので、今後再編計画を作成するに当たっては、それらも含めて検討しながら進めていきたいと考えている。

福本健康福祉部長 本年度行われた保育園連盟との会合のなかでも、かなり厳しいご意見をいただいた。出生数が700名を下回っている現状において、公立保育園に対する不要論も一部出ている。今後、公立保育園をどのようにしていくかも考えながら、幼稚園と連携していく必要があると思っている。

渡邊教育委員 部局が違っていると、連携や意見交換を一緒に行うことは難しい面もあると思うが、とても重要な問題でもある。子どもを産み育てやすい八代市にしていくためには、多様な保育ニーズに応えていくことが一番大事だと思うので、連携・協働をしっかりとお願いしたいと思っている。

早田教育委員 就学前教育については、小学校の教育に幼稚園や保育園の就学前教育を合わせる、そういう検証を行うということなのか。それとも、子どもたちの特性や保育の現状を小学校と連絡を取り合っていくということなのか。どういう感じになるのか教えていただきたい。

有働学校教育課指導係指導主事 就学前教育については、字の勉強をする、着替えの練習をするなどの早期教育という意味ではなく、幼児期に必要な生活や遊びを充実させ、それを小学校でリセットしてしまわないようにしっかりと情報交換を行いながら、小学校教育に繋いでいくという取組となっている。

早田教育委員 八代市には、たくさんの保育園があり、待機児童もいないとのことで、保育園に安心して預けることができるということ

は、しっかり仕事が出来るといことなので親にとってはとても有難く、私自身が八代市に帰ってきた理由もそこにある。また、様々な特色があり、その中から子どもの特性に合った園を選択できることはとてもいいことだと思うので、就学前教育においても同じような内容になり個性がなくなるのは残念に感じる。いろいろな選択肢があることを大事にしながら、小学校や中学校の教育に繋げていただくと有難いと思った。不登校児童が増加している現状で、教育の選択肢は増えたほうがよいのではないかと考える。もし自分が親の立場だったら、子どもが学校に行けなくなったときに、いろいろな選択肢で子どもにチャンスを与えられたらいいと思うので、そういう選択ができる八代市になっていったら、更に子育てがしやすくなると思う。

田北学校教育課長 それぞれの保育所においては、独自の方針で、様々な特色を持たせてあり、その中で保護者が選択を大事にしていくことはよいと思うが、小学校入学までに育てておきたい10の姿というものを国が示しており、それについては、共通理解を図りながら取り組んでいきたいと考えている。保護者に対しても、その取組を意識してもらい、小学校に滑らかに接続できるような形で教育を育んでいる。

丸山教育委員 保育園については民営化を慎重に進めている段階で、また公立幼稚園の再編についても、同様に慎重に進めなければいけない重要案件であるため、一足飛びにこれを一つの組織にまとめるということは非常に厳しいと思う。まずは、それぞれの所管でしっかりと地ならしをしていくことが大切で、その先に組織の問題というものが出てくると思う。認定こども園化となると、当然両方の組織に関係するので、適切な所管で行うことになろうかと思うが、まずは教育委員会としては、来年度この再編計画の策定をしっかりと取り組んでいただきたい。

(3) 放課後児童クラブの現状と課題について

橋口こども未来課長 資料により説明

早田教育委員 高田と龍峯のクラブが、耐震基準を満たさない老朽化した施設で運営しているとのことだが、日奈久断層の真上に位置しているため非常に危険であり、地震はいつ起こってもおかしくな

いので、早急にどうにかしないといけないと思った。

私自身、民間の学童保育に預けているが、子ども1人当たり毎月2万円弱の利用料を支払っている。家計の負担も非常に大きい。子どもがまだ小学校低学年のため、家にひとりで過ごさせることには不安もあることから、預けざるを得ない状況となっている。また、夏休み等の長期休暇になると、上の子も一緒に預けるため、2人合わせると月3万円を超え、仕方のない出費とはいえ、非常に負担は大きい。自分が住む太田郷校区の児童クラブは、利用者が多くなかなか預けることが出来ない状況となっている。また、長期休暇中に学校で実施される児童クラブについては、午前9時からしか預かってもらえないため、出勤時間の関係から預けることは困難で、必然的に民間の学童クラブという選択肢になってしまう。こういった理由から、仕方なく子どもだけで家で過ごさせている家庭も多く、それが事故や事件に巻き込まれることにも繋がると思うので、そのような課題を出してもらって、児童クラブの充実について前向きに検討いただけるということは、大変有難いことだと感じている。

橋口こども未来課長 耐震基準を満たしていない施設については、喫緊の課題であるので、教育委員会と連携し対応していきたいと考えている。

澤村教育委員 待機児童の増加、施設の老朽化等、課題についてよく理解できた。今後それらの課題にどのような対策をとるのか、見通しはどうなっているか。

橋口こども未来課長 現在、待機児童について、太田郷校区では小学校に協力いただき、余裕教室の整備をさせていただいている。また、千丁校区では、公共施設内に場所を確保し、待機児童の解消に向けて取組を進めている。施設の老朽化問題については、例えば、民設民営による保育所等での運営や、余裕教室の活用など、これからも教育委員会、小学校等と協議をさせていただければと考えている。

中村市長 施設の老朽化あるいは一人当たりの面積要件をクリアしていない施設等については、早急に点検しなければならない。何かあった時に大変なことにならないよう、しっかりとした体制で取り組まれるようお願いする。

渡邊教育委員 放課後児童クラブは、私の子どもや孫も利用させていただ

き、担当課の皆さんにはお世話になっている。本当に必要なものであり、このクラブのために学校を変更するご家庭があるなど、重要な事業だと思っている。今後、学校の余裕教室も増えていくかと想定しているが、耐震問題もあるので、その部分も計画的に行っていただきたい。仮に、改築・増築が必要となった場合、本市としてはどのような対応をされるのか、予算面での手立てはあるのか伺いたい。

橋口こども未来課長 待機児童関係や緊急的な対応については、国からの補助金等を活用しながら、改築等を進めていければと考えている。

丸山教育委員 放課後児童クラブは、ご家庭にとっては非常に切実な問題で、必要不可欠な場となっていると思う。これまでは、健康福祉部所管で取り組んできたが、利用対象が小学生でもあることから、教育委員会と課題の共有は必要だと、私自身現職時代にずっと思っていた。今回このような形で議題として上がってきたことは、非常によかったと思っている。主に、施設等、ハード面での課題が多いと思うので、就学前教育同様、こちらも教育委員会と市長部局が連携して課題をクリアしていきけるように進めていただきたい。

中村市長 放課後児童クラブは本当に有難いものである。子どもたちを守るという観点から、施設の再点検を行い、必要な改修を行っていかれるよう、よろしく願います。

4 その他
事務局

第3回総合教育会議について（令和6年2月20日午後1時開催予定）

5 閉会 (午後4時20分 閉会)